

平成30年度学校評価実施計画

学校名 聾学校

前年度評価結果の概要	重点目標に関する保護者アンケート結果を受けた中間達成率は、合理的配慮の提供については76%、専門性向上については73%であったが、年間達成率は、それぞれ81%、80%となり、達成指標としていた取組を遂行できたと思われる。次年度に向けては、合理的配慮に基づいた分かる授業への授業改善を行うとともに、さらなる専門性の向上に向けた研修の充実に取り組む必要がある。
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
聴覚に障がいのある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて、学校組織として一貫した教育を行うことにより、確かな学力と豊かなコミュニケーション力の向上を図り、様々な人々と係わりながら社会参加していく態度・習慣を養う。	(1)個別の指導計画を活用することで一人一人の教育的ニーズを明確にし、共有する。 (2)各学部間や寄宿舎との連携を強化し、幼稚部から高等部までの一貫教育を推進する。 (3)本校に勤務するすべての教員が、必要な知識・技能を身に付け、教育(相談)活動を充実させる。	(1)障がいに応じた合理的配慮を行うとともに、分かる授業の徹底を図る。 (2)本校に勤務するすべての教職員が、聾学校に求められる専門性を向上させる。

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
(1)障がいに応じた合理的配慮を行うとともに、分かる授業の徹底を図る。	・大分聾スタンダードの実施について、幼稚部でチェック項目を具体化し、教員相互の評価で80%以上の達成率を得る。 ・合理的配慮のある分かる授業について、保護者アンケートの達成率80%を得る。	・幼稚部版チェック表を作成するために、チェック項目の具体化と共通理解を図る。 ・全体授業の指導案の中で、チェック項目を確認する機会を設ける。	・既出の「授業ポイントセルフチェック」(幼稚部・小学部)と「大分聾スタンダード」を基に、幼稚部の実態に合わせたチェック表を作成する。 ・年間5回の全体授業の中で、幼稚部版チェック表を使って80%の達成率をめざす。	PL:幼稚部主事 SL:教務主任
	・新学習指導要領等に基づき、子どもたちの表現力を高める授業を行う。 ・分かる授業の改善に努め、保護者アンケートの教科指導「授業が分かりやすい」の項目達成率80%を得る。	・対象教科を決め、その教科において「考えをまとめる場」を設定した授業を行う。 ・「書く活動の取り組ませ方」について研修を深める。	・まとめの時間を除き、「考えをまとめる場」を設定した授業率80%を目指す。 ・保護者アンケートで「子どもは授業が分かりやすいと感じている」の項目達成率を、9月までには70%、1月までには80%を目指す。	PL:小学部主事 SL:教務主任
	・大分聾スタンダードの実施について、学部アンケート(教師・生徒)で80%以上の達成率を得る。	・めあてや課題、まとめを明確に提示する。 ・分かる授業の実施に向け、授業力向上について研修を深める。 ・深い学びに繋がる授業のあり方について学部で研修する場を設ける。	・めあてや課題、まとめの提示を毎時間行う。 ・学期に少なくとも1回、年間に5回以上の互見授業を行う。 ・大分聾スタンダード11項目の中から課題となる項目を選び、夏休みと冬休みに学部で研修を行う。	PL:中学部主事 SL:教務主任
	・大分聾スタンダードの実施について、学部アンケート(教師・生徒)で80%以上の達成率を得る。	・目標や課題、まとめを掲示し、1時間の授業の流れを示す。 ・書画カメラやパソコン・iPadなどICT機器を利用し、視覚教材を工夫して使用する。 ・大分聾スタンダードについての研修会を持つ。	・目標などの掲示を毎時間を行う。 ・ICT機器を活用するなど、視覚情報の提示を毎時間行う。 ・授業研究会(年間1回)や学部会での研修会(学期に1回)を通じて、大分聾スタンダードについて研修を深める。	PL:高等部主事 SL:教務主任
(2)本校に勤務するすべての教職員が、聾学校に求められる専門性を向上させる。	・教職員の専門性向上に関する、教職員・保護者へのアンケートについて、85%以上の達成率を得る。	・「聾学校に求められる専門性チェックリスト」を元にした研修の計画・実施	・全教職員が「聾学校に求められる専門性チェックリスト」をチェックし、自己目標を設定し、研修に取り組む。 ・研修部が、「聾学校に求められる専門性チェックリスト」とつながりを付けて研修を計画・実施する	PL:研修主任 SL:各部主事